

×1元内容見えては

脳血管センター医師異動問題

横浜市長 面会は認める

横浜市立脳血管医療センターの元神経内科医師で現在は市衛生局保健政策課に勤務する松岡慧子さん(45)の人事をめぐる市人事委員会の口頭審理で、松岡さん側証人の女性医師が「中田馨市長に直接会ったのメールで報告を入れていた」と証言した点については、中田市長は「十八日の審議会見て「会うな」とはある」と認めた。しかしメール

については「分量の多さは覚えていない。内容の全部は覚えていない」と答えた。

女性医師の証言は、松岡さんと女性医師が二〇〇二年十一月、松岡さんと中田市長の共通の友人を通じて計三回会ったほか、メールで医療過誤や同僚院の関連点を知らせたという内容。松岡さんが〇五年四月に配転されたことから、女性医師側

は「市長の口癖は「会って話をした者に対する重荷の多い」と思っていた」と述べた。

これについて、中田市長は「会うな」とはあるが、私の方から会いたいと言ったことは一度もない」と説明。「人事は公正でなくてはならず、一方的な意見だけ聞いて行うことはあり得ない。まして医師の異動は私口を挟むレベルではない」との考えを示した。メールのやりとりの機会には全職員との間であると説明し、「三ストメールなど僕は送っていない」と否定した。

女性医師は、医療過誤が公にされる前から、メールで「問題ある手術が行われた」と告発していたとしているが、中田市長は分からないですね(告発の内容は)認識していないと思う。職業としてやっているなら、病院内できちん議論しなければならぬ話だと答えた。

(春名 義弘)